



我如古のシンボル 我如古ヒラマーチャー（平松）

左上の写真は、かつて我如古ヒラマーチャー（平松）のあった場所の現在の様子です。樹齢三百年と伝わる我如古平松は横に大きく枝をのび立派な松の木であったと伝わっています。戦前、この平松の下は広いアシビナー（遊び庭）があり、旧暦三月三日にはサンングワチャー行事が行われていました。



▲我如古ヒラマーチャー（平松）のあった場所。枝は大きく伸び31～33メートルはあったといわれています。2019年（平成31）年4月



▲我如古ヒラマーチャー（平松）1930 昭和5年頃『写真集ぎのわん』より



▲二代目平松 2019（平成31）年4月

【問合せ】
市立博物館 ☎870-9317

左の「我如古ヒラマーチャー」の写真を見ると、幹の側にある標柱には「懸内傘松中最も美ナルモノナリ」と書かれています。松の幹は大人五、六人で抱えるほどの太さだったといわれています。また、我如古ヒラマーチャー近くの道は、琉球処分後に第2代県令に就任した上杉茂憲が沖繩本島の村落を巡回視察する際に通ったことでも有名です。

1964（昭和39）年にこの平松は沖繩戦でなくなり、戦後、2代目の松が旧公民館横の広場に植樹され、1987（昭和62）年には現在の公民館に移されました。

平松の側には
我如古平松や 枝持ちぬ美しさ
我如古美童ぬ 身持ち清らかさ

という平松の美しさを称える歌詞が刻まれた石碑が建っています。
宜野湾の南口の玄関口にあった我如古ヒラマーチャー（平松）の姿はなくなりましたが、我如古のシンボルとして人々の心に残っています。

まのわんの 歴史・文化遺産 を歩く

〔其の43〕

はじめに

市民のみなさん、今回は過去に発掘調査をおこなった真志喜大川原遺跡（まじきうつかーばるいせき）について紹介します。真志喜大川原遺跡は遺跡を発見した順に第一、第二、第三、第四遺跡と名前がついています。その中でも、特徴的な遺物が出土した第三遺跡について紹介します。

遺跡の内容

真志喜大川原第三遺跡は、宜野湾市真志喜の標高一八〜一九メートルの丘陵台地に位置する貝塚時代中期頃（約二五〇〇年前）の遺跡です。東側には貝塚時代前・中期（約三〇〇〇年前〜二五〇〇年前）の集落跡である真志喜大川原第四遺跡が在ります。

第三遺跡の特徴としては、石鏃（せきぞく）およびその剥片（はくへん）が出土しており、石鏃製作跡と考えられています。

石鏃とは、先が尖っており弓矢や槍の先につけるような、加工された石のことを指します。第三遺跡では地表面で採取された製品もあわせて、せいまい範囲で十一点の石鏃と九〇点余りの未完成品や石を加工したときに出る剥片などが出土しました。石鏃の材料となった石は一種類ではなく、チャートや石英、沖繩にはない黒曜石でできたものもあります。

発掘調査で見つかったこのような資料から、第三遺跡は石鏃を製作していた場所ではないかと推察されており、また、その背後に位置する第四遺跡がその時代の人々が生活していた集落跡ではないかと考えられています。

真志喜大川原遺跡は区画整理事業に伴う工事で消滅してしまいましたが、発掘調査を行い、どのような遺跡であったか記録されることで宜野湾市の歴史を知るための手がかりとなっています。

【問合せ】文化課 ☎893-4430



▲真志喜大川原第一、二、三、四遺跡から出土した石鏃